

平成 29 年度 第 1 回 屋代高等学校・附属中学校 学校評議員会 記録

日 時： 平成 29 年 8 月 3 日(木) 10:00～11:50

場 所： 本校会議室

出席者： 学校評議員 7 名

学校職員 9 名（学校長，教頭，副校長，高校教務主任，キャリア教育係，広報入試係長，SSH 委員長，生徒会係主任，理数科委員長）

司 会： 教頭

1 開会 学校長より (学校長)

2 自己紹介

3 学校からの説明 各担当より本校の課題について

- (1) 附属中学校について (副校長)
- (2) 進路および学習の状況と課題について (キャリア教育係)
 - ・ 今年度(高 3)の進路希望状況
 - ・ 附属中 1 学年及び高 1 学年の状況
- (3) 生徒指導全般について (生徒指導係)
- (4) 第 IV 期 2 年次 SSH について (SSH 委員長)
 - ・ 今年度の取組み
- (5) 入試選抜，広報関係について (広報入試係長)
 - ・ 平成 29 年度入試の志願状況
 - ・ 平成 29 年度授業公開、体験入学
- (6) 学校評価について (教務主任)
 - ・ 平成 29 年度重点目標と学校関係者評価

4 主な質疑・提言

- ・ (質問)今の社会状況では長期欠席者は特別な事ではないと考えられるが、附属中学の実情はどうか。
⇒ (回答)基本的にはゼロであるが、3年生に若干心配な生徒がおり、別室登校などで対応している。また、多様化する生徒の個々に合わせて教育相談やカウンセリングを重視し、支援会議などを持ちながら、高校でも指導していきたい。
- ・ (提言)印象とすれば少ないという感じがする。心配な生徒が是非高校を卒業できるよう引き続き継続的な支援をお願いしたい。
- ・ (提言)ある大学の調査では、入学後の学業成績は入試の成績より高校時代の欠席との相関の方が強いという報告もある。引き続き、中高段階からその点も留意してご指導いただきたい。
- ・ (質問)繊細でコミュニケーションの苦手な子に対して、教員としてかかわるなかで、どのような指導や接し方がより成果をあげていくとお考えか。
⇒ (回答)日常生活の中で、いかに生徒の居場所をつくるかを大事にしている。生徒を褒め、良いところを引き出すような指導に心がけている。また、一方では日常の生徒同士のかかわりも大切に、一方では課題探究等の授業やアクティブラーニング等の授業改善の中で、うまくしゃべれない生徒に対して十分な

配慮をしつつ、少しでも話させるような機会を多くとることに努めている。

- ・(提言) マナーやコミュニケーション等の問題は、話す対象が均一ではなく、年齢差のある人と話す経験が小さいときにあるかないかが大きい。その点、知らず知らずのうちに自然と外部の人と接点を持てたり、目上の人や下の人とも接することのできるカリキュラムは他校にはないものであり素晴らしい。それらは、生徒にとって、必ずしも今開花しなくとも将来的には必ず生きてくる。
- ・(提言) 長期欠席者やコミュニケーション能力の問題は、成人近くになって多くの大人と接することによって変わってくるケースも多くみられる。まだ、途上の子ども達ですべてうまくいくわけではないので、どうか気長に見てほしい。
- ・(質問) 他校では味わえない特徴として、中学生と高校生が係わる中でより人間的成長が促されるというメリットがあると思われるが、実際の様子はどうか。
⇒(回答) 例えば、班活では中高生が一緒に活動することにより、高校生の姿から競技力の向上のみならず、礼儀作法などもきちんと学んでいる。また、文化祭では中学生のやる文化祭とはまた一味違う高校の文化祭に中学生の立場で係ることが出来るのはありがたいことであり、高校生もすごく中学生へ配慮してくれて中学生も参加できる内容を用意してくれたりし、年上のものが年下の者に配慮をして物事を考え企画していくということを高校生・中学生ともそれぞれの立場から学んでいるよさがある。また、今年から高校3年の一期生が中学3年生の教室を訪ね、高校生活に関するグループワークに参加して中学・高校生活を熱く語ってくれ、中学生にとって良い学習の場ともなっている。こういったことが日常的に行い得る環境にある。
- ・(質問) SSH も15年経ちIV期に入ったが、サイエンスリーダーがどの位育ったのか。出口調査などがあればその結果を教えてください。
⇒(回答) 大学から先の追跡はなかなか難しい。SSHIV期申請の際に試みたが、全体像はつかめず、この分野にこんな人がいる程度であった。
- ・(提言) ドクターをとった人の人数程度ならどうでしょう。また、それに限らず SSH 以外の生徒とどう違うのかの比較もできればよいが。
- ・(提言) SSH のように予算が関係すると、どうしてもやりすぎてしまう傾向がみられる。効果が十分にあるかの検証が大事で、切るべきところは切ることも必要だ。
- ・(質問) 各学校の進路状況が公開され、どういう進路があるかは最重要課題ではないか。
⇒(回答) 一期生の動向もあり、今年の進路実績が世間から注目されていることは承知している。高校から入ってきた生徒も含めた超難関大学での実績は重要であるし、それのみではなく、どの生徒に対してもその生徒が行きたいと思っている大学に入れることを大事にしていきたい。屋代高校の良さは面倒見の良さであり、それを大事にしたい。
- ・(提言) 進学先の成果も大事であるが、入試の結果にかかわらず生徒・保護者の満足度も大事。本校で過ごせて本当によかったと思える学校であり続けてほしい。
- ・(提言) 来年度はメディアの中高一貫校の分析が始まるかと思われる。ただ、その中で一番頑張っていて活動したのは生徒の皆さんであり、その先どう生きていくかという視点を含めた生徒の将来を見据えた分析・情報発信が聞かれている。屋代高校の分析力・情報発信に期待したい。
- ・(提言) 屋代高校の普通科は魅力がないというか、文系は端に寄せられているという偏見もある。屋代の文

系＝公務員になるためのルートというイメージも強いので、文系の成果の情報発信・文系の華々しいルートも示していきたい。

- ・(提言)附属中学を不合格だった人の動向が重要。その人たちが再度高校受検するような学校ならすばらしい。
- ・(提言)HPのトップページに「小学生の皆様へ」とか「中学生の皆様へ」とか「受検生を持つ保護者の皆様へ」とかの項目があり、そこから関連項目へ入れるようにするとより分かりやすくなり更なる情報発信へとつながるのではないかな。
- ・(提言)今年も2年生に「課題探究」という新しいカリキュラムを取入れたり、先生方は本当に生徒のために一生懸命やっておられ、改めて敬意を表したい。自信をもってやっていただきたい。

5 閉会 学校長より(御礼)

一貫生や選抜生や理数科生がともに一緒になって切磋琢磨して行くよう、指導していきたいと思えます。長野県、少なくとも東北信の学びの拠点として、SSHで培った課題探究・課題研究等を通して生徒に想像力・判断力・表現力を身につけさせるノウハウを他校に広めていくという大きな使命も感じています。その使命のためにも、生徒の良いところを伸ばしていきたいと思えますので、今後ともよろしくお願ひします。